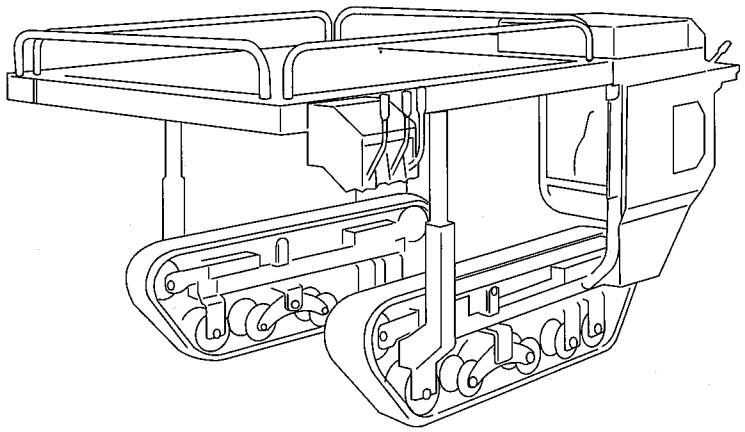
CANYCOM

小型運搬車
CV42

取扱説明書



⚠警　告

この説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

3554 7001 000 01

株式会社 筑水キャニコム
福岡県うきは市吉井町福益90-1　〒839-1396
TEL (0943)75-2195 (代) FAX (0943)75-4396

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただいて、正しい取り扱いをしてください。

⚠警　告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

⚠警　告

本製品は、農業用の運搬車ですので、それ以外の用途には使用しないでください。公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

⚠警　告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

目　　次

1. はじめに 1

1.1 本書の目的について 1
1.2 本書の構成について 1
1.3 本書の警告用語について 2
1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて 2

2. 保証とアフターサービスについて 3

3. 安全運転・作業のための心得 4

4. 各部の名称とはたらき 8

5. 製品仕様 9

5.1 本製品の仕様 9
5.2 工具袋明細 10

6. 運転と操作 11

6.1 始動前の準備 11
6.1.1 燃料の点検と補給 11
6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給 11
6.2 始動のしかた 12
6.3 運転のしかた 14
6.3.1 通常操作 14
6.3.2 フロントレバー操作 16

6.4 停止のしかた 18
6.5 クローラ中心距離の調整のしかた 19
6.6 防除および散水用タンクをセットする場合 20

7 保守（お手入れ） 21

7.1 定期点検表 21
7.2 給油、注油一覧表 24
7.3 消耗品（交換部品）一覧表 25
7.4 給油 26
7.4.1 エンジンオイル 26
7.4.2 トランスミッションオイル 27
7.5 注油・給脂 28
7.6 清掃 30
7.6.1 エアクリーナエレメント 30
7.6.2 点火プラグ 30
7.6.3 フューエルコック（フューエルフィルタ） 31
7.7 調整 32
7.7.1 Vベルト 32
7.7.2 走行クラッチ 32
7.7.3 ブレーキ 32
7.7.4 サイドクラッチ 33
7.7.5 フロント走行クラッチ 33
7.7.6 フロントサイドクラッチ 34
7.7.7 クローラの張り 34
7.7.8 ベルトストッパ 35
7.8 使用後のお手入れ 37

8. 格納（長期保管） 38

8.1 本機（車両） 38
8.2 エンジン 39
8.2.1 フューエルコック 39
8.2.2 エアクリーナエレメントの清掃 39
8.2.3 エンジンオイルの交換 39

9. 不具合発生時の処置 40

9.1 不具合診断表 40

10. 本機の移送 44

＜保証書＞

本書の巻末に添付
※　本機の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

＜付　録＞

「エンジン取扱説明書」（工具袋に同封）
※　本書と併せて必ずお読みください。

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。
また、本書は、はじめてこの製品を使用される方を対象として制作しています。

1.2 本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1．はじめに

この章では、本書の目的、構成および本書で使用している警告用語について説明しています。また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2．保証とアフターサービスについて

この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3．安全運転・作業のための心得

この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4．各部の名称とはたらき

この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5．製品仕様

この章では、本製品の仕様について記載しています。また、工具袋の明細についても記載しています。

6．運転と操作

この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7．保守（お手入れ）

この章では、定期点検、給油、給脂、給水、清掃、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8．格納（長期保管）

この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9．不具合発生時の処置

この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10．本機の移送

この章では、本製品を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。

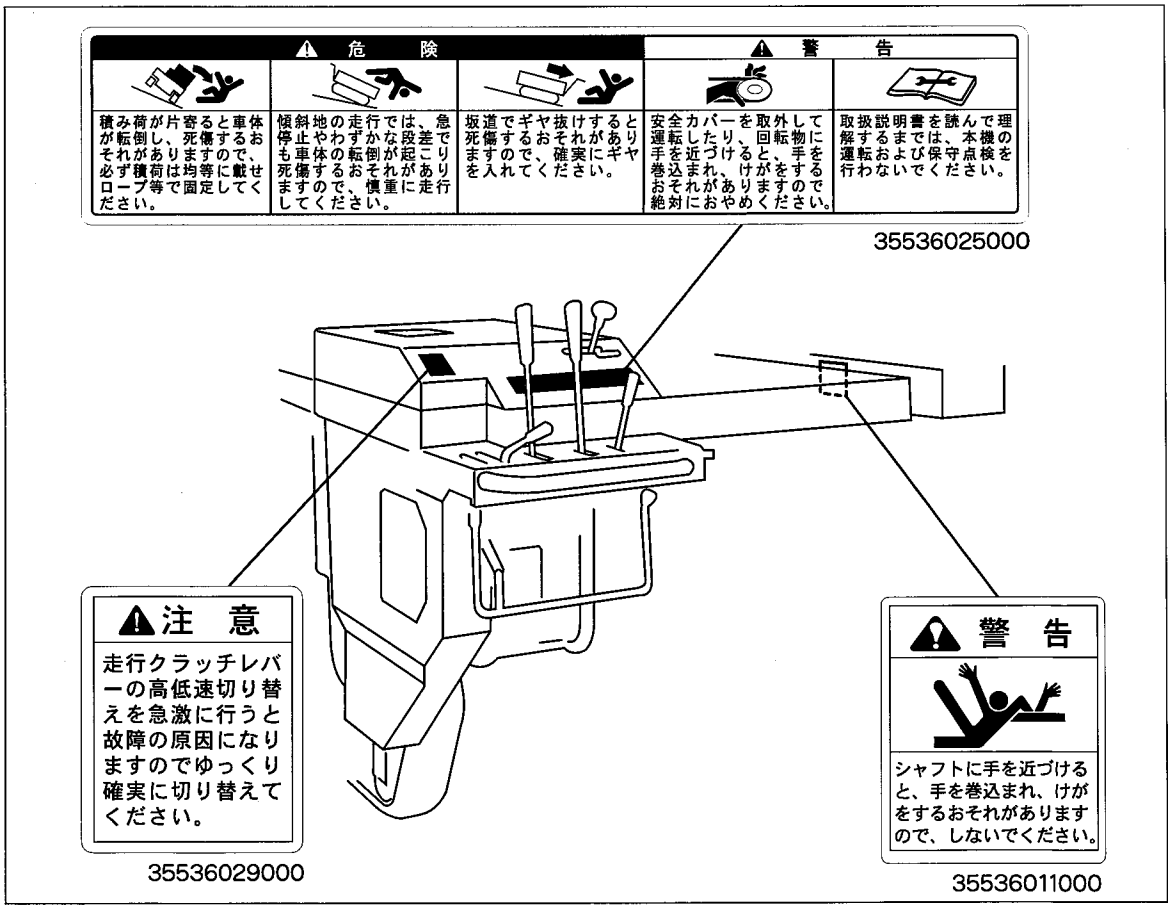
1.3 本書の警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を次の４段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意　味
⚠危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注　記	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり、見えにくくなった場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。



2. 保証とアフターサービスについて

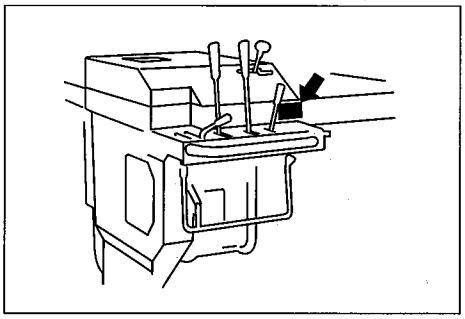
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に添付の保証書を参照ください。

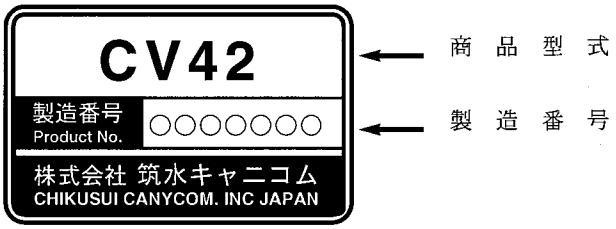
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。
その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。(搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の第５章「製品仕様」を参照してください。☞９ページ)

＜型式ラベル位置＞



＜型式ラベル＞

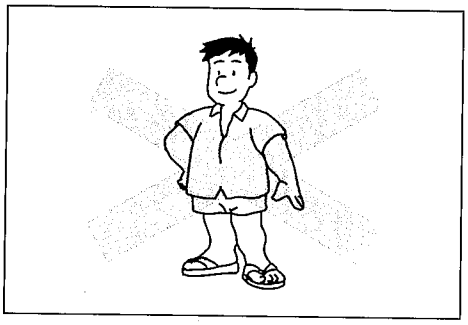


補修用部品の供給年限（期間）について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後７年とします。

3. 安全運転・作業のための心得

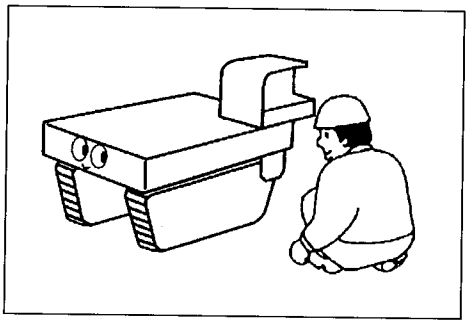
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。



運転前の心得

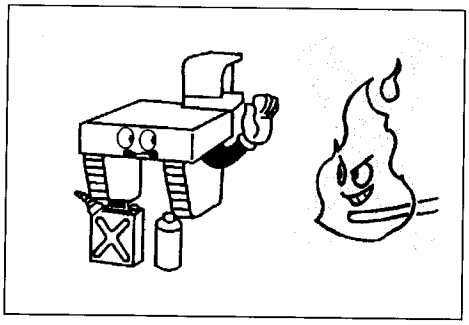
⚠ 正しい服装の励行

運転および作業にふさわしい服装を心掛け、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



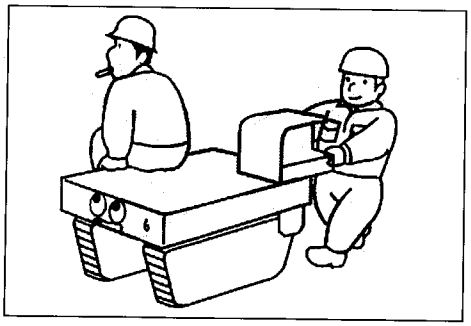
⚠ 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



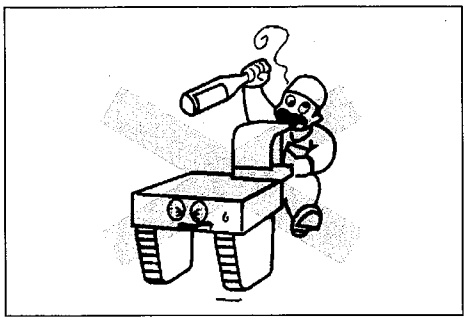
⚠ 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



⚠ 乗車禁止

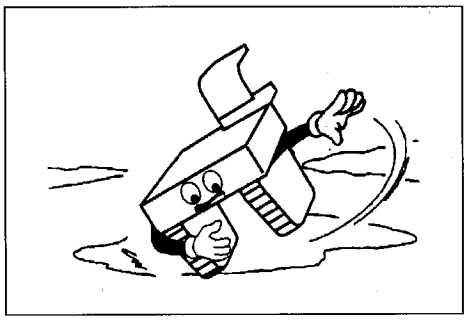
本製品は乗車できません。人を乗車させての運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。絶対に人を乗せないでください。



⚠ 無謀運転禁止

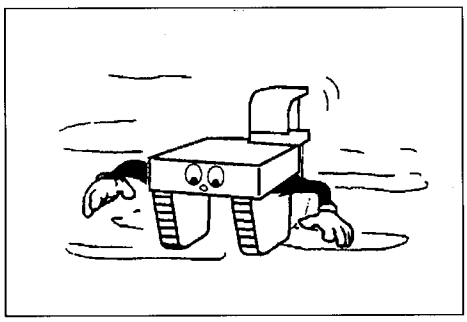
飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。

走行時の心得



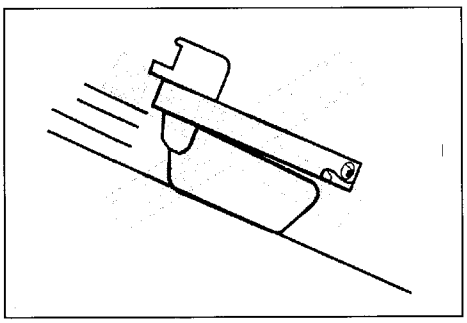
⚠ 急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。



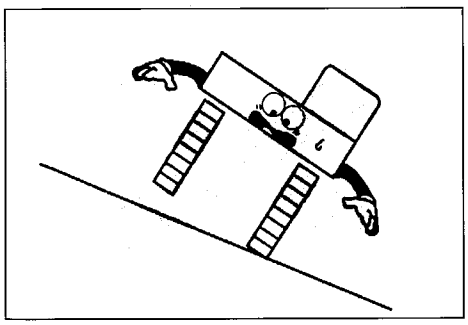
⚠ 安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。



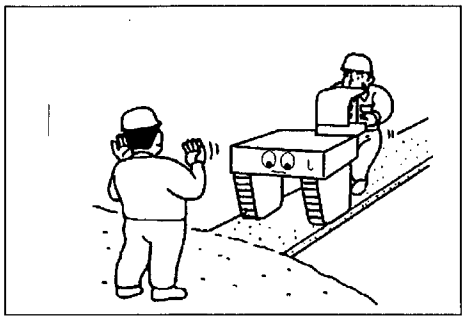
⚠ 下り坂ではエンジンブレーキを

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジンブレーキを必ず使用して減速を行ってください。十分な減速を行わないで停止操作を行うと、車体が浮き上がるおそれがあり危険です。



⚠ 斜面での横断禁止

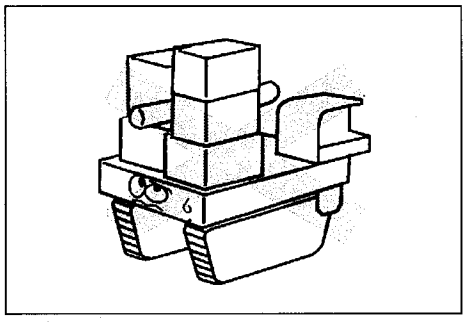
傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると危険です。また急傾斜地はサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は、逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。



⚠ 危険な場所では誘導者の指示に従う

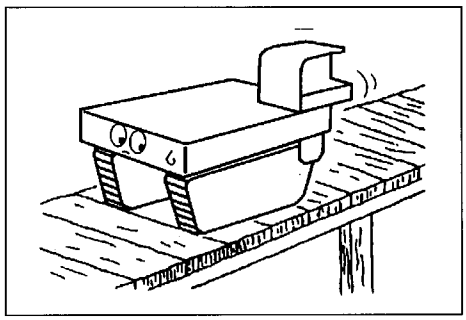
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

積載時の心得



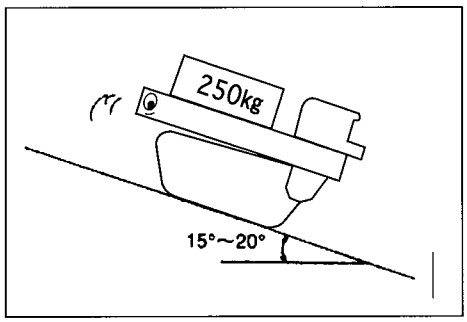
⚠ 過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。



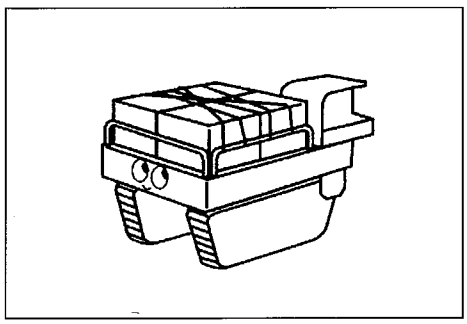
⚠ 制限重量に注意

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



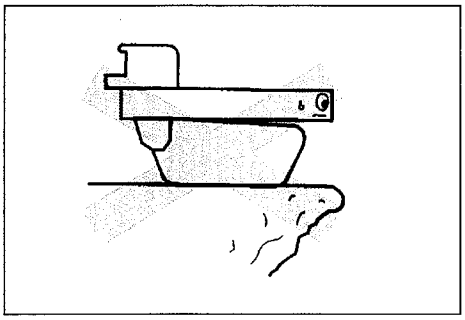
⚠ 傾斜地での走行、積載量に注意

15°～20°の傾斜地では、積載量を250kg以下にして登り時は低速前進で、下り時は低速後進で走行してください。又、空車時の登り時は低速後進で、下り時は低速前進で走行してください。20°を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転してください。



⚠ 積み荷は正しく載せる

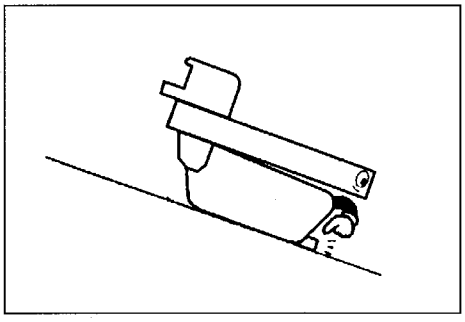
積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。



駐車時の心得

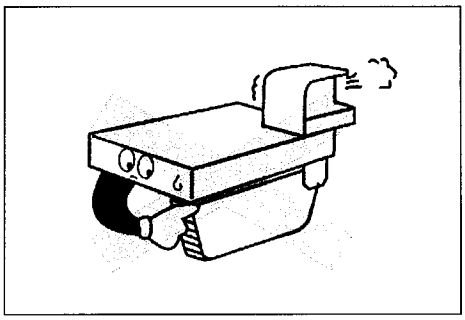
⚠ 危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。



⚠ 駐車時の安全確認および坂道での輪止め励行

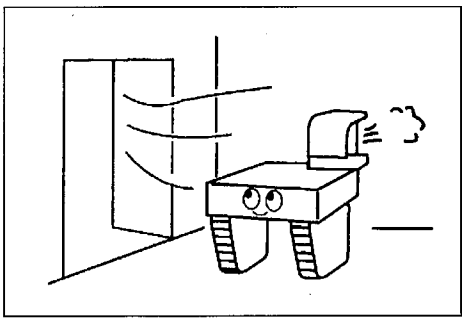
坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけた後、輪止めをしてください。



整備時の心得

⚠ エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

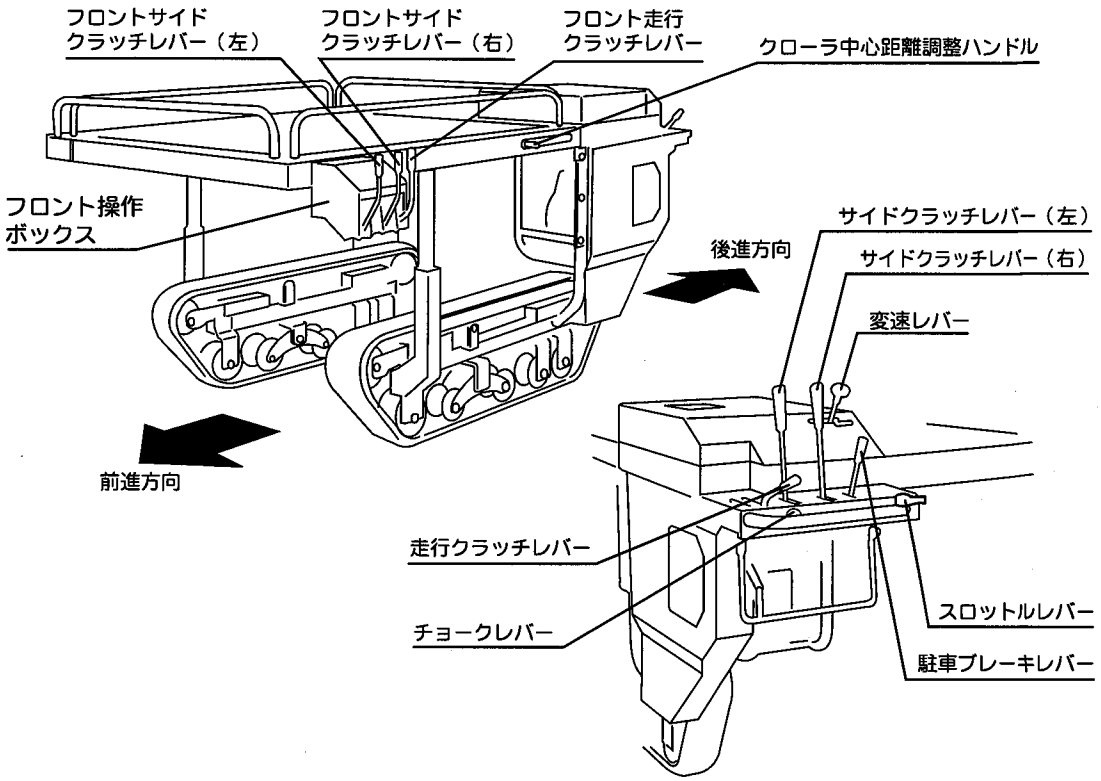


⚠ 換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

4. 各部の名称とはたらき

各部の名称



各部のはたらき

- スロットルレバー ..... エンジン回転数の増減を行います。
- サイドクラッチレバー ..... 方向を変える時に使用します。
  車体はレバーを引いた側へ曲ります。
  また、左右同時にレバーを引くとその場で急停止します。
- 走行クラッチレバー ..... エンジンからミッションへの動力の伝達を断続させます。
  レバーを「入」位置に入れると走行状態、「切」位置に入れると停止状態になります。
  また、「入」位置は「高速」と「低速」２段階の選択ができます。
- 変速レバー ..... 走行速度の選択に使用します。
  変速は走行クラッチレバーを「切」にして、車体が停止した状態で行ってください。
- 駐車ブレーキレバー ..... 車体を確実に駐車させます。
  レバーを引くとブレーキがかかります。
- クローラ中心距離調整ハンドル ..... ハンドルを回転させると、クローラ中心距離が伸縮します。

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

注　記

本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名称・形式				CV42
機械質量			kg	365
最大作業能力			kN (kg)	4.9 (500)
機械寸法	全長		mm	2410 [2680]
	全幅		mm	1260～2030 [1510～2280]
	全高		mm	1240
	クローラ接地長さ		mm	900
	クローラ中心距離		mm	900～1670
	最低地上高		mm	620～900
	床面高さ		mm	700、860、1020
荷箱寸法	荷箱内側寸法	長さ	mm	1450
		幅	mm	1240～2010
		高さ	mm	140
エンジン	名称			クボタGH130
	形式			空冷４サイクルOHV
	シリンダ（内径×行程）		mm	61×43
	総排気量		cm^3 (cc)	126 (126)
	最大出力		kW/min^{-1} (PS/rpm)	3.1/2000 (4.2/2000)
	連続定格出力		kW/min^{-1} (PS/rpm)	2.2/1800 (2.9/1800)
	最大トルク		N·m/min^{-1} (kg·m/rpm)	15.3/1400 (1.56/1400)
	始動方式			リコイル式
	使用燃料			ガソリン
	燃料消費率		g/kW·h (g/PS·h)	312 (230)
	燃料タンク容量		ℓ	3.0
	潤滑油容量		ℓ	0.55
	点火方式			電子点火
	点火プラグ品番			BPR6HS

名称・形式							CV42
走行性能	走行速度	前進	低速	1速		km/h	0.58
				2速		km/h	1.31
			高速	1速		km/h	1.83
				2速		km/h	4.13
		後進	低速	1速		km/h	0.62
				2速		km/h	1.40
			高速	1速		km/h	1.97
				2速		km/h	4.43
	最小回転半径					m	1.7
	登坂能力					度	20＜空車＞
トランスミッション油量						ℓ	0.7
動力伝達装置	クラッチ形式						ベルトテンション方式
	主変速形式						ギヤスライド
	操向装置形式						爪ロック式
	ブレーキ形式						内拡式ブレーキ
	クローラ					mm	160×52×60

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。　注）[　] 寸法はフロント操作ボックス装着時を示す。

5.2 工具袋明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書（本書）	1	
2	エンジン取扱説明書	1	
3	スパナ（24）	1	クローラ張りボルト調整用
4	グリースニップル	1	

6. 運転と操作

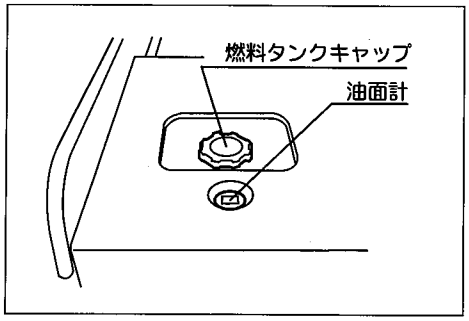
- 本章を読む前に第３章「安全運転・作業のための心得」（☞４ページ～７ページ）を必ずお読み下さい。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

6.1 始動前の準備

6.1.1 燃料の点検と補給

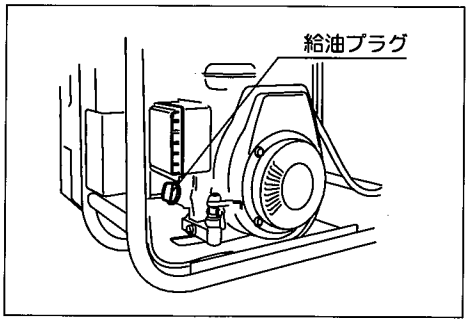
⚠ 危 険

- **給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。**
- **給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。**
- **エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。**



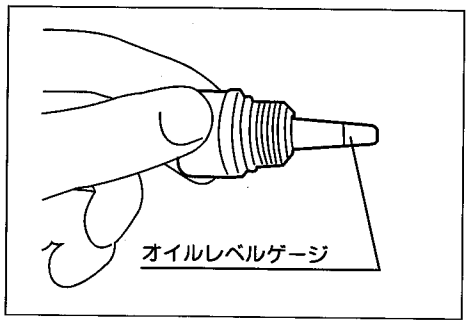
1. 油面計を目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

   使用燃料：ガソリン
   燃料タンク容量：3.0ℓ



6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給

1. エンジンオイルの給油プラグを取外します。



2. エンジンオイル量を目視点検し、規定量にない場合はエンジンオイルを補給します。

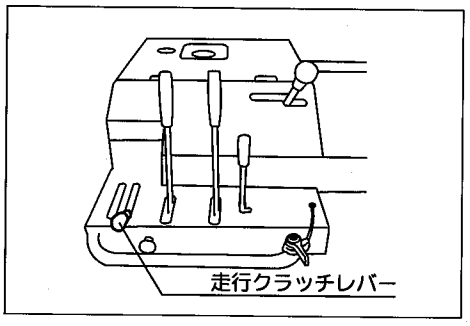
使用オイル：☞24ページ

エンジンオイル量：
給油口の口もといっぱいまで

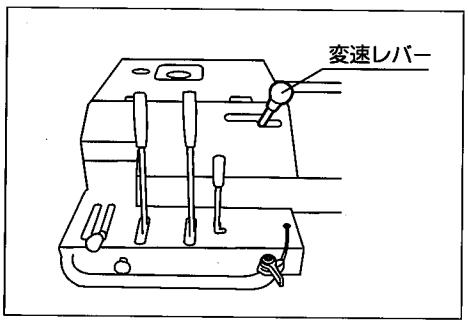
6.2 始動のしかた

⚠ 危 険

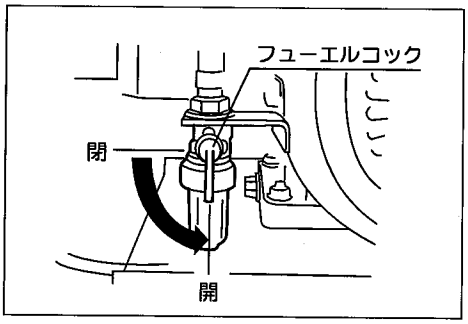
エンジンの始動は、必ず換気のよい場所で行ってください。



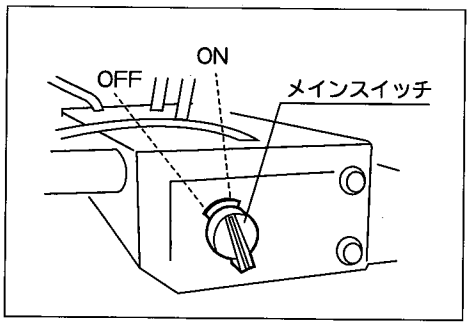
1. 走行クラッチレバーを「切」の位置にします。



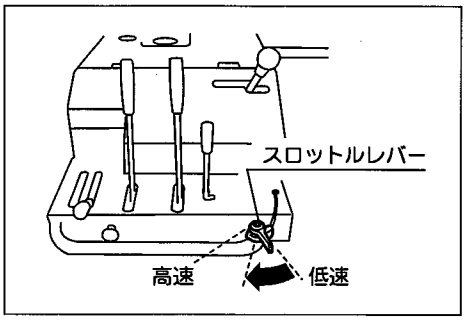
2. 変速レバーを「中立（ニュートラル）」の位置にします。



3. エンジンのフューエルコックを「開」の位置にします。

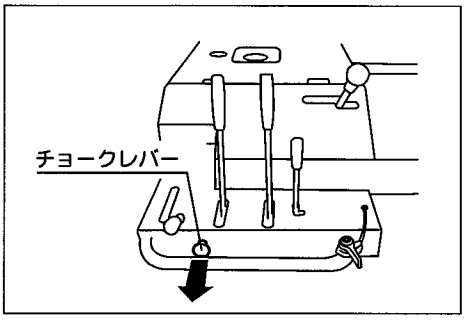


4. メインスイッチを「ON」の位置にします。



5. 本体のスロットルレバーを「低速」と「高速」の中間位置にします。

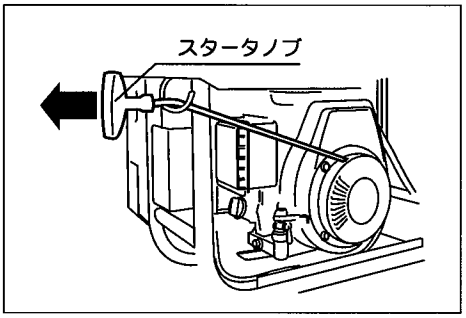
参考：
本体のスロットルレバーは、スロットルワイヤを介してエンジン側のスロットルレバーに連結されています。



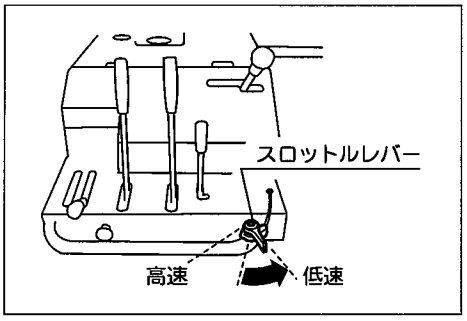
6. チョークレバーを引き、「全閉（|＼|）」の位置にします。

注　記

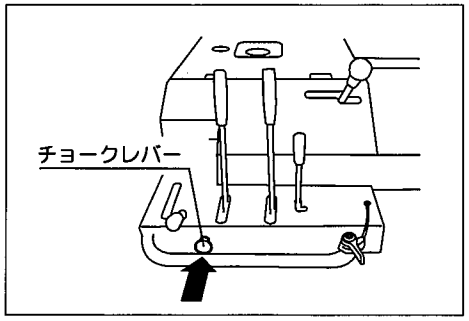
エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを引く必要はありません。



7. スタータノブを握り、圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢い良く引っ張ります。



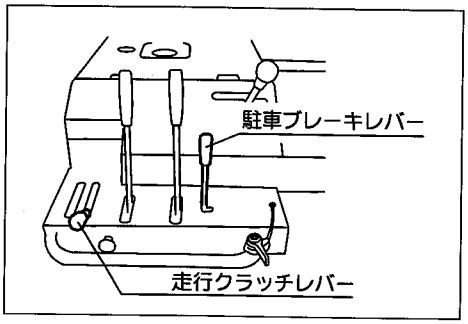
8. エンジンが始動したら、スロットルレバーを「低速」側に動かします。



9. チョークレバーを「全開（|||）」の位置に戻し、3～5分間暖気運転をします。

注　記

- **購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。**

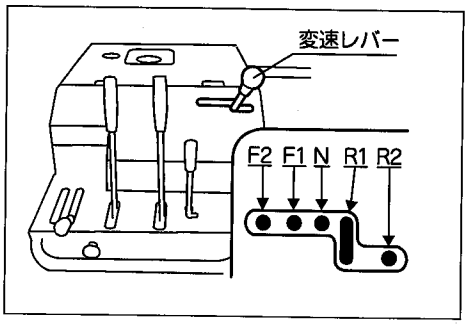


6.3 運転のしかた

6.3.1 通常運転

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。

2. 走行クラッチレバーが「切」、駐車ブレーキレバーが「P」の位置にあることを確認します。

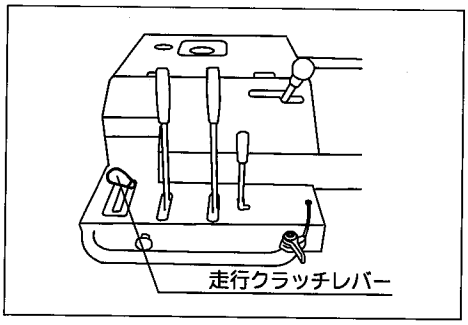


3. 変速レバーを前進または後進の任意の変速位置に確実に入れます。(各変速位置での走行スピードについては、第５章の「製品仕様」を参照してください。☞10ページ)

⚠危　険

変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、走行クラッチレバーを「入」へ少し動かし、確実にギヤチェンジを行ってください。

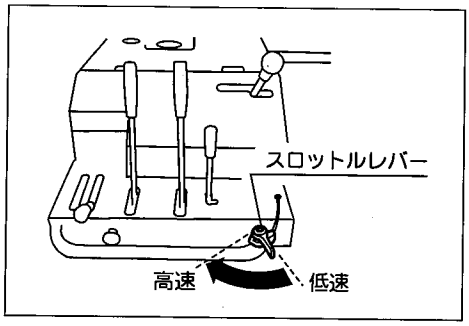
4. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置にします。



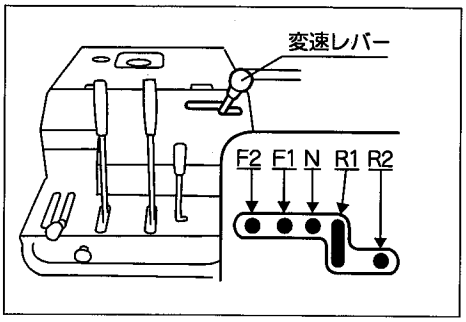
5. 走行クラッチレバーを「入」の位置（低速または高速）に徐々に倒し、発進させます。

注　記

走行クラッチレバーを急に倒すと、エンストする場合があります。



6. スロットルレバーを「低速」から「高速」側へ徐々に動かし、速度を調整します。



（変速する場合）

7. 車体を停止させた後、14ページ１～３の操作を行います。（車体の停止のしかたについては、6.4『停止のしかた』を参照してください。☞18ページ）

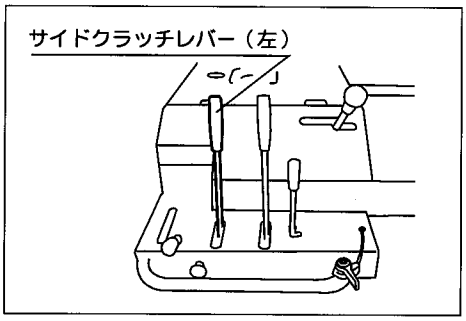
⚠注　意

走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。

（旋回する場合）

⚠注　意

左右両側のサイドクラッチレバーを同時に操作すると急停車しますので、緊急の場合を除き、左右のサイドクラッチレバーを同時に操作しないでください。

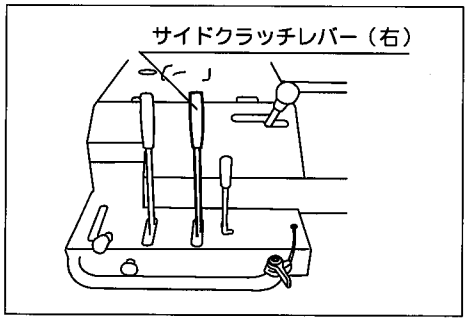


左に旋回する場合：

8. 左側のサイドクラッチレバーを手前に倒します。

⚠注　意

急旋回は緊急の場合を除き、避けてください。

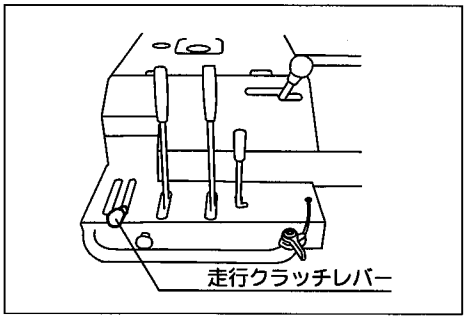


右に旋回する場合：

9. 右側のサイドクラッチレバーを手前に倒します。

⚠注　意

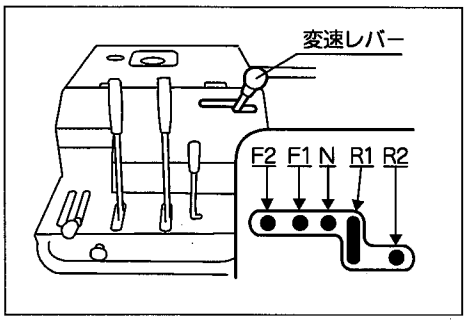
急旋回は緊急の場合を除き、避けてください。



6.3.2 フロントレバー操作

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。

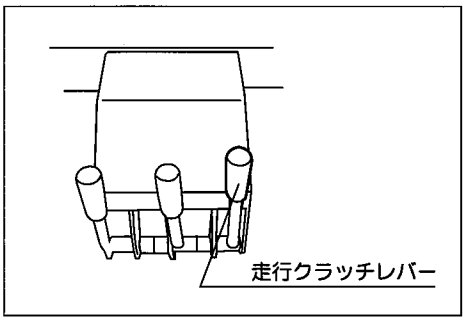
2. 走行クラッチレバーが「切」の位置にあることを確認します。



3. 変速レバーを前進または後進の任意の変速位置に確実に入れます。（各変速位置での走行スピードについては、第５章の「製品仕様」を参照してください。☞10ページ）

⚠ 危 険

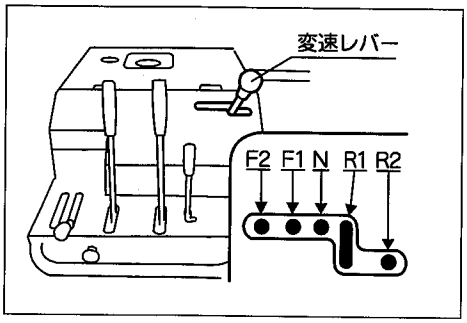
変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、走行クラッチレバーを「入」へ少し動かし、確実にギヤチェンジを行ってください。



4. 走行クラッチレバーを徐々に倒し、発進させます。レバーを倒している間は走行し、手を離すと自動的にレバーが戻り停止します。
フロントレバー操作の場合、クラッチは「低速」の状態で作動します。

注　記

走行クラッチレバーを急に引くと、エンストする場合があります。
エンジン側の走行クラッチレバーが「入」の状態での走行中は、フロント走行クラッチレバーでの走行停止はできません。

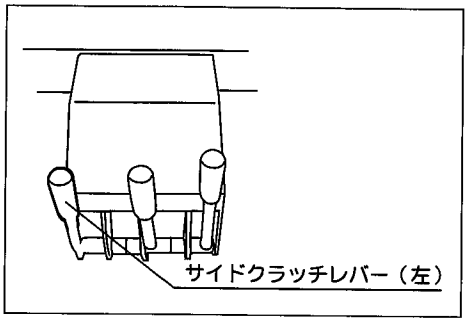


（変速する場合）

5. 車体を停止させた後、16ページ１～３の操作を行います。（車体の停止のしかたについては、6.4『停止のしかた』を参照してください。☞18ページ）

⚠注　意

走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。



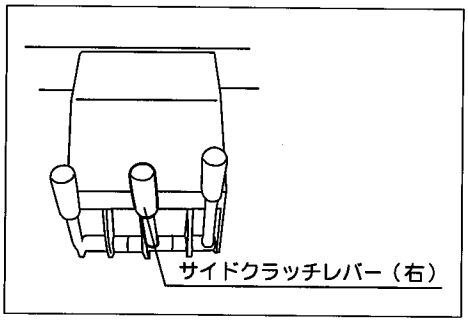
（旋回する場合）

左に旋回する場合：

6. 左側のサイドクラッチレバーを手前に倒します。

⚠注　意

急旋回は緊急の場合を除き、避けてください。

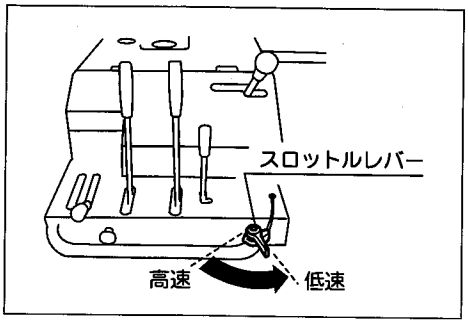


右に旋回する場合：

7. 右側のサイドクラッチレバーを手前に倒します。

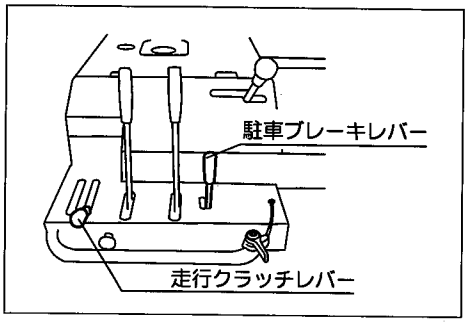
⚠注　意

急旋回は緊急の場合を除き、避けてください。



6.4 停止のしかた

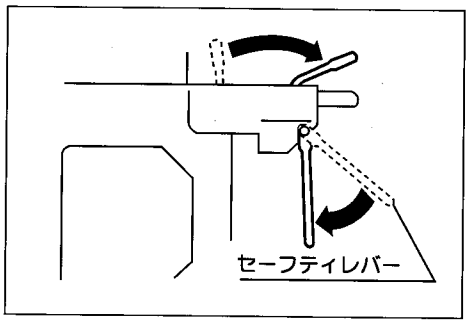
1. スロットルレバーを「低速」の位置にします。



2. 走行クラッチレバーを「切」、駐車ブレーキレバーを「P」の位置にします。

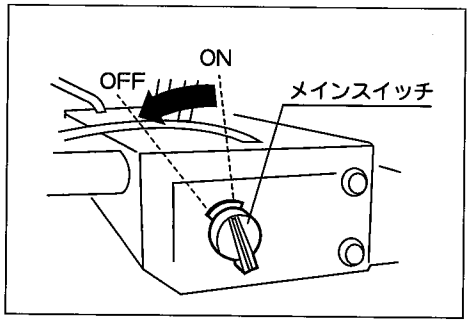
⚠注　意

緊急の場合は、左右のサイドクラッチレバーを同時に手前へ引いてください。車体は急停車します。なお、傾斜地では車体が浮き上がることがありますので、十分注意してください。

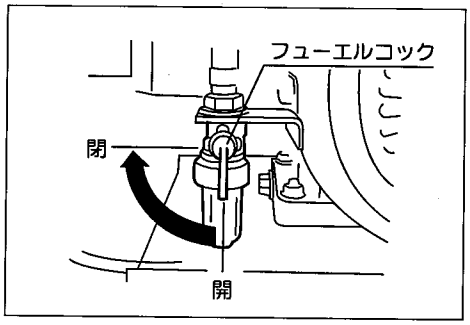


注　記

後退時に作業者が壁などにはさまれた場合には、セーフティレバーを操作して非常停止してください。



4. エンジンスイッチを「OFF」にします。



5. フューエルコックを閉じます。

6.5 クローラ中心距離の調整のしかた

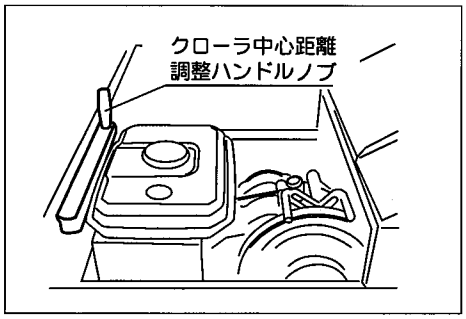
⚠警 告

積載した場合は、クローラ中心距離の調整は行わないでください。

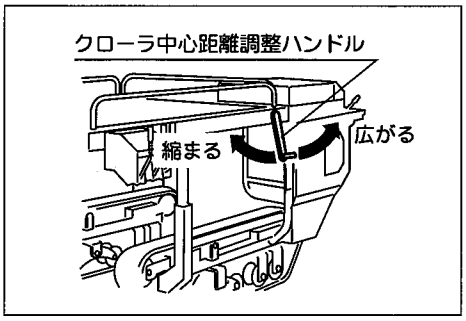
1. 車体を停止します。(☞18ページ)

注 記

車体を停止する際は、地面が堅く、平らな場所で停止してください。



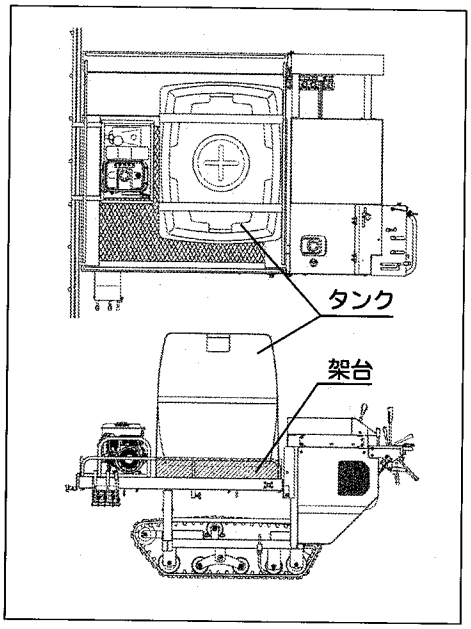
2. 燃料タンク横のクローラ中心距離調整ハンドルノブを取り外し、荷台側面のスクリュー軸端にセットします。



3. クローラ中心距離調整ハンドルを回し、畝間隔にクローラ中心距離を合わせます。

注 記

クローラ中心距離調整ハンドルを操作する場合は、危険防止のためエンジンを停止してから行ってください。



6.6 防除および散水用タンクをセットする場合

1. 荷台床面の高さを一番低い位置にします。
(☞36ページ)

2. タンクは、架台（発泡スチロール等の受け台）に載せ荷台後方（エンジン側）に寄せ、タンクの長辺を横方向にセットします。

3. ロープ、金具等を用いて動かないようしっかり固定してください。

⚠警　告

タンク内に水や薬剤等の液体を入れた状態の場合、5° 以上の傾斜があるところでの走行、又圃場への出入り、畝の乗り越え等は絶対にしないでください。重心の変化により転倒し死傷するおそれがあります。

注　記

タンクをセットする際は前方の視界を妨げないようにしてください。

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

注　記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については、販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	始動性	● エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○	
		回転の状態	● アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。	正規の回転数であること。 回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
			● エンジンを加速した時、スロットルレバーの引っ掛かり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。	引っ掛かり、エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
		排気の状態	● エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
			● 排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れのないこと。		○	○	
		エアクリーナ	● ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂、変形またはふた、接続管に緩みがないこと。		○	○	
			● エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	清掃／交換：☞30ページ
		締付け	● シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 ＊これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	
		弁隙間	● 弁隙間を調べる。 ＊弁隙間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。	正規の弁隙間であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	圧縮圧力	● 圧縮圧力を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		エンジンマウント	● エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○	
			● 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
	潤滑装置		● 油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検／交換：☞26ページ
			● ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
	燃料装置		● 燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れのないこと。	○	○	○	
			● 燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			● フューエルフィルタの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	
	電気装置	点火プラグ	● 電極の消耗状態、カーボンの堆積の有無を調べる。	消耗がなく、カーボンの堆積がないこと。			○	点検／清掃：☞30ページ
		配線	● 接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
			● 配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○	
	走行クラッチ		● アイドリング状態でクラッチを切り、異音の有無を調べると共にトランスミッションを変速しクラッチの切れ具合を調べる。	異音がなくクラッチが完全に切れること。	○	○	○	調整：☞32ページ
			● クラッチを徐々に接続して発進の具合を調べる。	滑りがなく接続が円滑であること。	○	○	○	調整：☞32ページ
動力伝達装置	Vベルト		● 外観の損傷および汚れの有無を調べる。	損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○	点検：☞32ページ
			● 変速レバーを前進および後進状態にして駆動し、作動状態ならびにギヤ抜け、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、ギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
	トランスミッション		● ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検／交換：☞27ページ
			● 油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	
			● ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
走行装置	サイドクラッチ	● 走行してサイドクラッチレバーを操作した時、異音がなく確実に作動するか調べる。	異音がなく確実に作動すること。	○	○	○	
		● レバーを操作し、遊びおよび引きしろの適否を調べる。	遊びおよび引きしろが適正であること。	○	○	○	調整：☞33ページ
		● レバーを操作し、ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆付きの有無を調べる。	ガタまたは錆付きがないこと。		○	○	
	転輪 遊動輪 スプロケット	● 亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	亀裂、変形または著しい摩耗がないこと。	○	○	○	
		● 走行して軸部の異音および異常発熱の有無を調べる。	異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
		● 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
		● 軸部周辺から油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。	○	○	○	
	クローラ	● スチールコードの切断および損傷の有無を調べる。	切断または著しい損傷がないこと。	○	○	○	
		● ゴムの欠け、劣化および摩耗の有無を調べる。	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと。	○	○	○	
		● クローラの張り具合を調べる。	緩みまたは張り過ぎがないこと。	○	○	○	調整：☞34ページ
	クローラ張りボルト	● 張りボルトの変形、腐食の有無を調べる。	変形、腐食がないこと。		○	○	
制動装置	ブレーキ	● 機械を走行させてブレーキの効き具合を調べる。	効き具合が適正であること。		○	○	調整：☞32ページ
		● 機械を無負荷状態で　勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞32ページ
		● レバーを反復させて引き力および戻り具合を調べる。	引き力または戻り具合が正常であること。	○	○	○	
	ロッド、リンク及びワイヤ類	● ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。	○	○	○	
		● ブレーキを反復作動させ、連結部の緩みおよびガタならびに割ピンの欠損の有無を調べる。	連結部の緩みまたはガタ、割ピンの欠損がないこと。	○	○	○	
車体・荷台	荷台	● 荷台の伸縮が円滑に行えるかを調べる。	円滑に作動すること。	○	○	○	
		● 取付けボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	各部の亀裂、変形および摩耗がないこと。	○	○	○	
	車体	● 車体およびカバーの亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落の有無を調べる。	亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落のないこと。		○	○	

7.2 給油、注油一覧表

項　　目	補給（交換）時期	推　奨　品	容量	参照ページ
燃料	随時	ガソリン	3.0ℓ	☞11ページ
エンジンオイル	補給：毎日点検し、不足時に補給 交換： 初回：20時間目 ２回目以降：50時間毎（毎週）	（API分類　SD級以上 SAE分類　10W-30）	0.55ℓ	☞26ページ
トランスミッションオイル	初回：50時間目 ２回目以降：500時間毎	ギヤオイル（API分類 GL4または5 SAE分類 #80）	0.7ℓ	☞27ページ
走行クラッチレバー支点、テンションアーム支点への注油	６ヶ月毎 ＊購入後、半年は注油不要	ギヤオイル（API分類 GL4または5 SAE分類 #80）	—	☞28ページ
転輪（スイング）	６ヶ月毎 ＊購入後、半年は注油不要	シャーシグリース	—	☞28ページ

7.3 消耗品（交換部品）一覧表

項目			部品番号	交換時期	個数	参照ページ
エアクリーナエレメント			ー	50時間毎（毎週）に点検し、不具合があれば交換	1	☞30ページ
フューエルコック（フューエルフィルタ）			ー	200時間毎（毎月）に点検し、不具合があれば交換	1	☞31ページ
Vベルト	走行	高速	08521300039	不具合があれば交換	1	交換については販売店へ依頼してください
		低速	08521300046	不具合があれば交換	1	
ブレーキライニング			73064019000	不具合があれば交換	1	
クローラ			35532061000	不具合があれば交換	1	交換については販売店へ依頼してください
スロットルワイヤ			35330107000	不具合があれば交換	1	—
チョークワイヤ			32050109000	不具合があれば交換	1	—
サイドクラッチ・走行クラッチワイヤ			35533011000	不具合があれば交換	3	—
上記以外で点検上交換が必要と思われる部品				販売店（当社センター）へお問い合わせください。		—

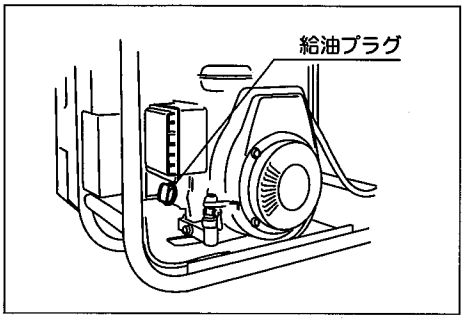
注　記

油圧ホースなどのゴム製品は使わなくても老化する消耗品です。
２年ごと、または傷んだときには、新品と交換してください。

7.4 給油

注　記

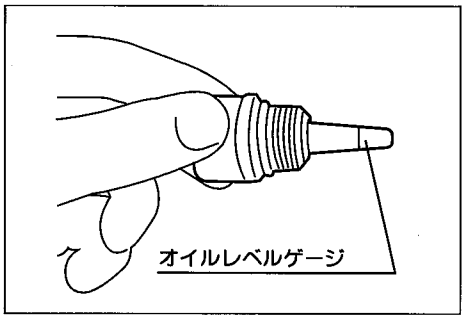
給油がおろそかになると、回転が円滑に行われないばかりでなく、故障の原因となりエンジンの寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。



7.4.1 エンジンオイル

点検／補給

1. エンジンオイルの給油プラグを取外します。

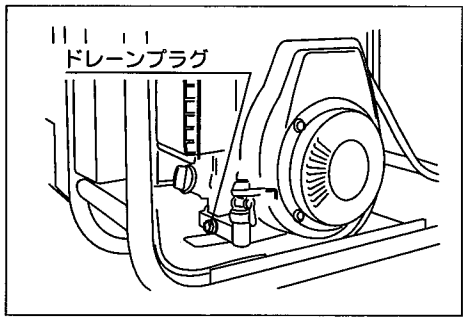


2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。

   使用オイル：☞24ページ

   エンジンオイル量：
   給油口の口もといっぱいまで

3. 給油プラグを取付けます。



交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。

2. オイルドレーンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。

⚠注　意

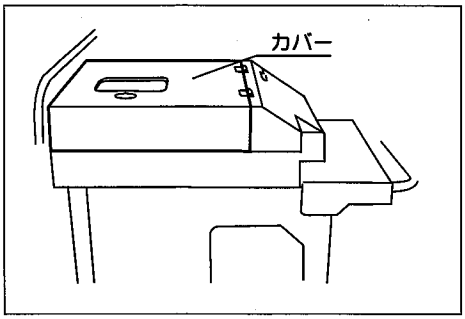
オイル高温時には火傷のおそれがあります。

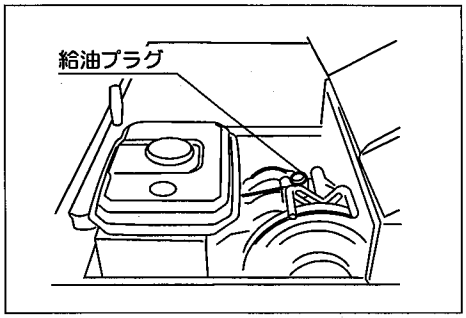
注　記

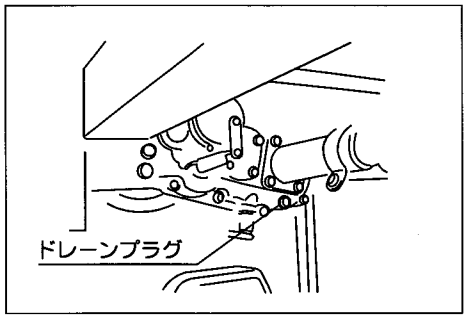
廃油は適切な処理をしてください。

3. オイルドレーンプラグを取付けます。

4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）







7.4.2 トランスミッションオイル

点検／補給

1. カバーを開き、給油プラグを取外します。
2. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。補給は、キャップを外し、ジョウゴ等にて行ってください。

   使用オイル：☞24ページ

3. 給油プラグを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

   参考：
   給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

⚠注　意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注　記

廃油については適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）

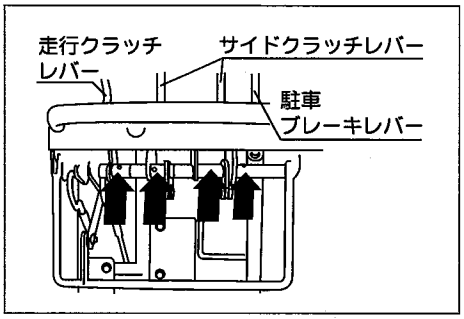
7.5 注油・給脂

注　記

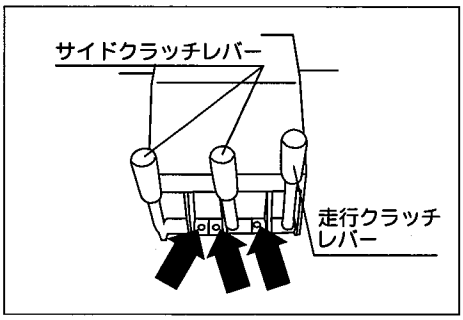
注油や給脂がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転が円滑に行われないおそれがありますので、定期的に行ってください。

図示箇所に注油します。

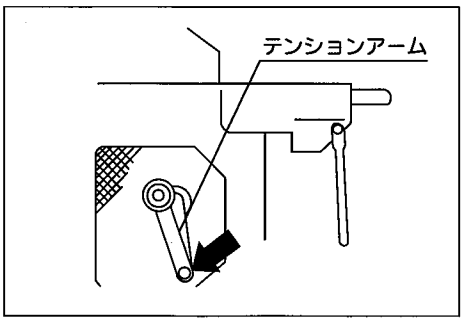
使用オイル：☞24ページ



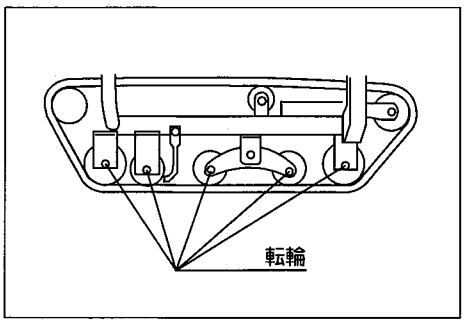
① メイン操作部
- ● 走行クラッチレバー支点
- ● サイドクラッチレバー支点（左右）
- ● 駐車ブレーキレバー支点



② サブ操作部
- ● 走行クラッチレバー支点
- ● サイドクラッチレバー支点（左右）



③ テンションアーム



④ 転輪（スイング）

使用グリース：☞24ページ

参考：

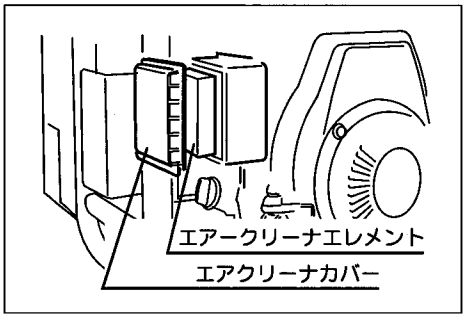
- 手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒で十分です。
- 転輪（スイング）は外側のボルトを外し、付属のグリースニップルをスパナで締付けて各転輪に給脂を行ってください。給脂後はグリースニップルを外し、元のようにボルトを確実に締付けてください。

7.6 清掃

7.6.1 エアクリーナエレメント

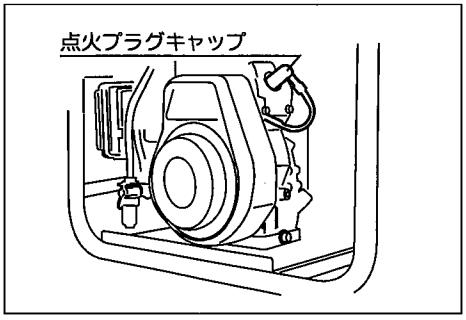
注　記

- **エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。**
- **エアクリーナエレメントはエンジンの種類によって乾式、半湿式、オイルバス式などのタイプがあります。清掃方法は各タイプで異なりますので、付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、正しく清掃を行ってください。**



清掃／交換

1. エアクリーナカバーを取外します。
2. エアクリーナエレメントを取外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。



7.6.2 点火プラグ

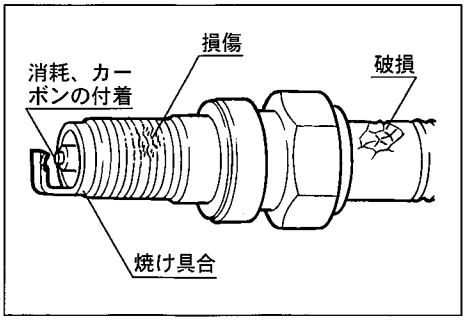
点検

1. 点火プラグキャップを取外します。

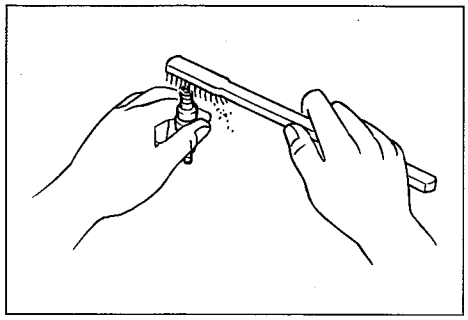
注　記

点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。

2. プラグレンチを使用して点火プラグを取外します。

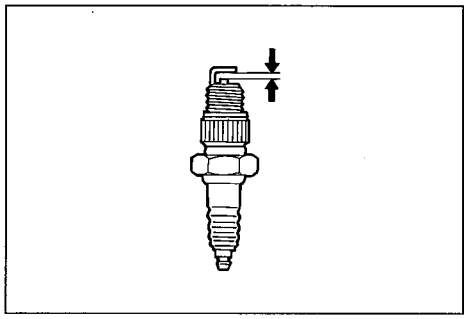


3. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。（点火プラグの仕様：☞9ページ）
   - 絶縁体破損の有無
   - 電極の消耗状況
   - カーボンの堆積
   - ガスケットの損傷、破損
   - 火花部碍子の焼け具合



清掃

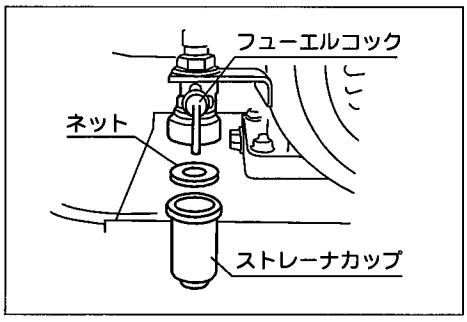
1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。



2. 電極（火花）すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。

   標準値： 0.7 mm

3. 点火プラグを取付けます。



7.6.3 フューエルコック（フューエルフィルタ）

清掃

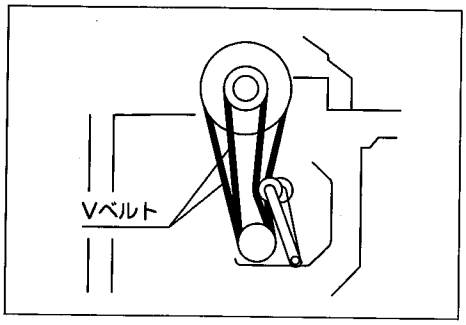
1. フューエルコックが「閉」の位置にあることを確認します。

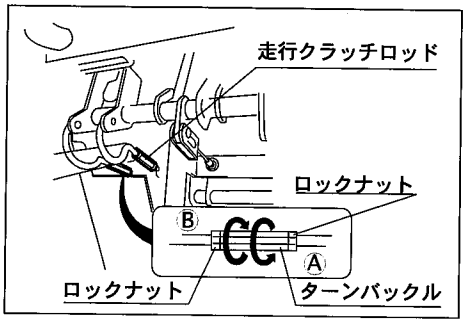
2. ストレーナカップおよびネットを取外します。

3. ストレーナカップの底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）を除去します。

4. ネットを新しいガソリンで洗浄します。

5. ネットおよびストレーナカップを取付けます。





7.7 調整

7.7.1 Vベルト

点検（エンジンVベルト）

1. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。

交換

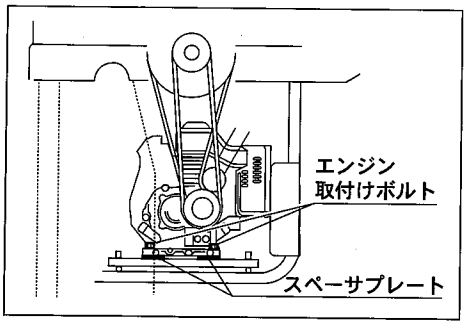
販売店へ依頼してください。

7.7.2 走行クラッチ

1. 走行クラッチレバーを「切」の位置にします。
2. 走行クラッチロッドのターンバックルのロックナットを緩めます。
3. ターンバックルを回し、走行クラッチロッドを調整ます。
   - 走行クラッチの切れが悪い場合
     ターンバックルを Ⓑ の方向（ロッドが伸びる方向）へ。
   - Vベルトがすべる場合
     ターンバックルを Ⓐ の方向（ロッドが縮む方向）へ。
4. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。

上記調整でもベルトがすべる場合

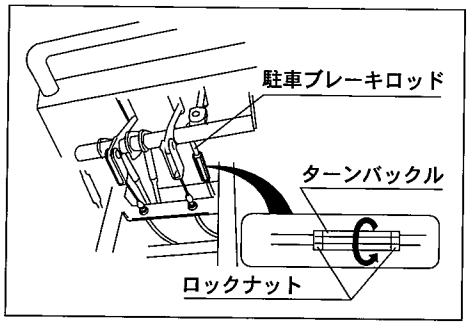
5. エンジン取付けボルトを取外し、スペーサプレート（前後に1枚ずつあります）を１枚ずつ取外して調整します。



注　記

スペーサプレートを取外す際は、前後の枚数を必ず合わせるようにしてください。外したスペーサは必ず保管してください。Vベルト交換時に使用します。

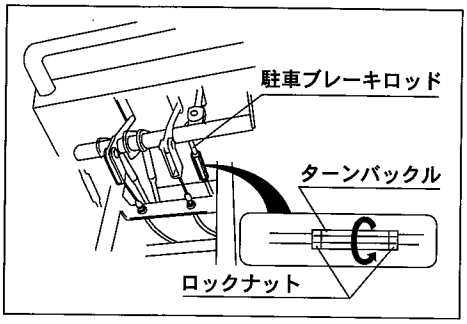
7.7.3 ブレーキ



注　記

少しでも甘くなったりした場合は即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにしてください。

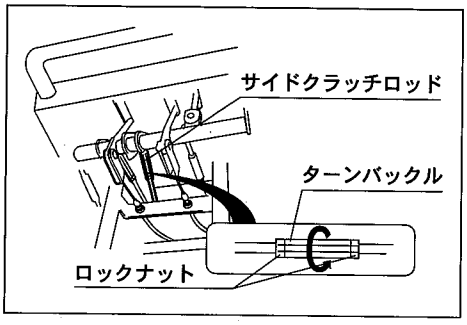
1. 駐車ブレーキレバーを解除します。
2. 駐車ブレーキロッドのターンバックルのロックナットを緩めます。



3. ターンバックルを回し、駐車ブレーキロッドを調整します。

   ● ブレーキの効きが悪い場合
   ブレーキ「入」の状態でブレーキロッドとブレーキ間のスプリングが約２mm伸びるよう、ターンバックルを矢印の方向（ロッドが縮む方向）へ調整します。

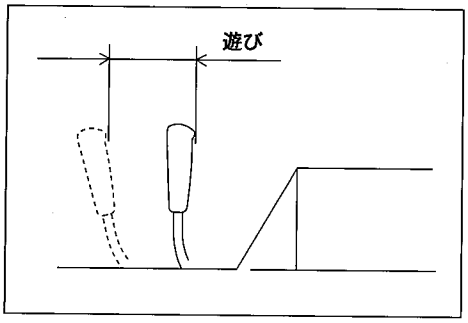
4. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。



7.7.4 サイドクラッチ

注　記

サイドクラッチレバーに遊びが多くなった場合、または旋回が円滑にできない場合は、サイドクラッチロッドのターンバックルで調整してください。

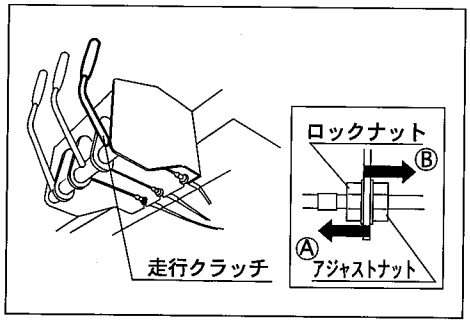


1. サイドクラッチロッドのロックナットを緩めます。

2. ターンバックルを回し、サイドクラッチレバーの遊びが下記の値になるように調整します。

   サイドクラッチレバーの遊び：
   ５～10 mm（レバー握り部で）

3. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。



7.7.5 フロント走行クラッチ

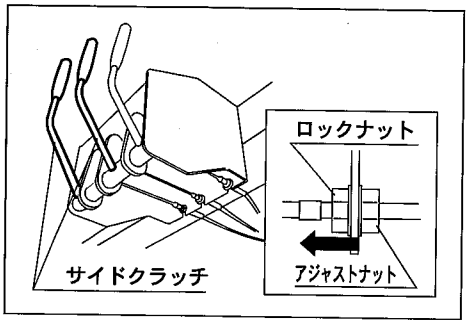
1. 走行クラッチレバーを「切」の位置にして、クラッチワイヤをフリーの状態にします。

2. クラッチワイヤのロックナットを緩めます。

3. アジャストナットを回し、クラッチワイヤを調整します。

   ● 走行クラッチの切れが悪い場合
   アジャストナットを Ⓑ の方向へ。
   ● Ｖベルトがすべる場合
   アジャストナットを Ⓐ の方向へ。

4. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。



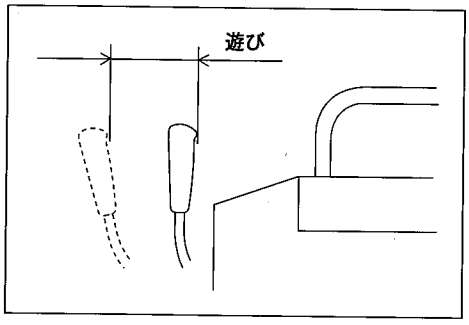
7.7.6 フロントサイドクラッチ

注　記

サイドクラッチレバーに遊びが多くなった場合、または旋回が円滑にできない場合は、サイドクラッチワイヤのアジャストナットで調整してください。

1. サイドクラッチワイヤのロックナットを緩めます。
2. アジャストナットを矢印の方向に回し、サイドクラッチレバーの遊びを調整します。

サイドクラッチレバーの遊び：
1～5mm（レバー先端部で）



3. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。

7.7.7 クローラの張り

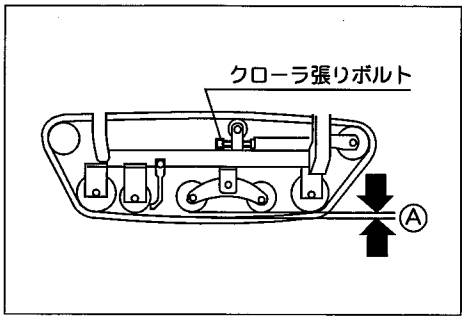
注　記

クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になりますので、常に正常な張り調整を行ってください。

1. 車体を水平な場所に置きます。
2. ジャッキアップ等して、片側のクローラを地面から浮かせます。

⚠注　意

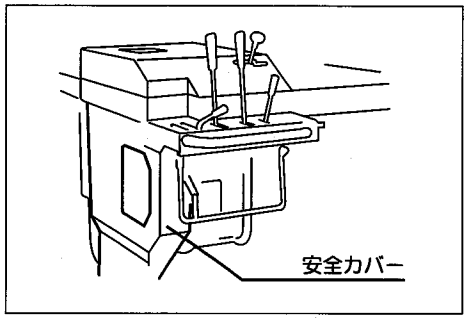
ジャッキ等が外れないように十分注意してください。



3. クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。

4. クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図示Ａ）が10～15mm程度になるよう調整します。

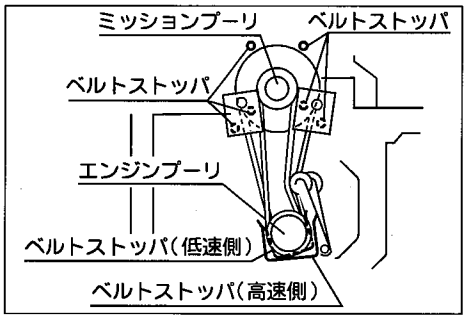
5. 調整後、ロックナットを締付けます。



7.7.8　ベルトストッパ

注　記

- **クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパを外した場合、以下のように調整してください。**
- **調整はエンジン停止の状態で行ってください。**



1. 安全カバーを取外します。

2. ベルトストッパとプーリとの間隔が４～５mm程度になるようにセットします。

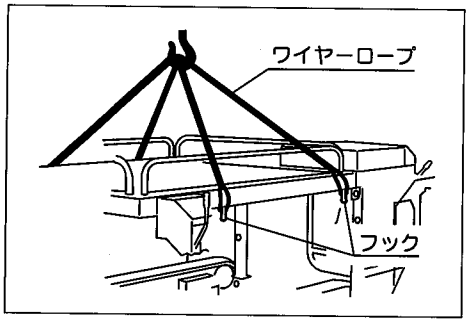
7.7.9 荷台の高さ

注　記

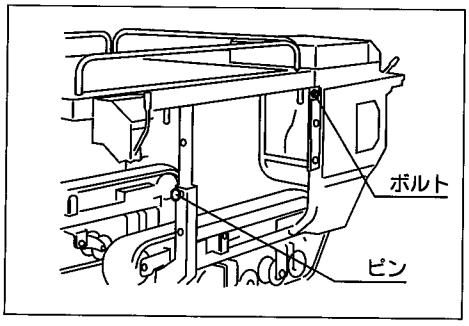
荷台の高さは、出荷時に調整済みです。やむなく再調整が必要な場合は以下のように調整してください。

⚠警　告

荷台の高さの再調整を行う際は必ずクレーン等をご使用ください。荷台が不安定となり大変危険です。



1. 車体を水平な場所に置きます。
2. 荷台左右のフックにワイヤーロープを引掛けロープが張るまでクレーン等で引き上げ荷台を支えます。



3. 荷台左右の支柱のピンとボルトを取り外しクレーン等で荷台を上下させ高さを調整します。荷台高さは3段階調整可能です。
4. 荷台高さ調整後、荷台支柱のピンとボルトを取り付けます。

注　記

クレーン等がない場合は、販売店又は当社センターへお問い合わせください。

7.8 使用後のお手入れ

（通常時の使用後のお手入れ）

- 使用後は車体に付着した泥や異物を取除いてください。エンジンやトランスミッションの給油プラグ付近の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。

- 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておいてください。

（寒冷期の使用後のお手入れ）

- 使用後必ず車体に付着した泥や異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくと効果的です。）

- 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておいてください。

注　記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で溶かすか、凍結が溶けるまで待ってください。

8. 格納（長期保管）

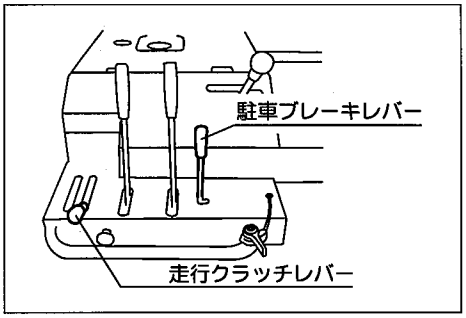
長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞37ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

⚠危　険

火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注　記

屋外および湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、防水シート等を本機にかけてください。



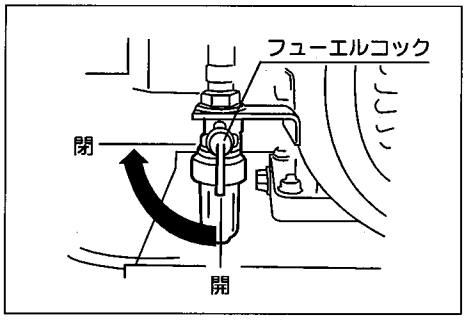
8.1 本機（車両）

1. クローラの張りボルトを緩めます。（☞34ページ）
2. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は給油します。
3. クローラの下に板等を敷きます。
4. 走行クラッチレバーを「切」の位置にします。

8.2 エンジン

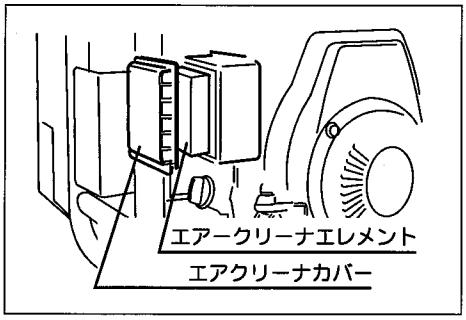
注　記

- 気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期保管する場合は、気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料は使用しないでください。
- エンジン保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。



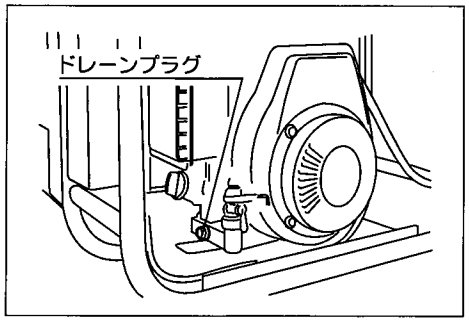
8.2.1 フューエルコック

1. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。



8.2.2 エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを取外し、確実に清掃します。(☞30ページ)



8.2.3 エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを抜取り、新しいエンジンオイルと交換します。(☞26ページ)

9. 不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。

- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

9.1 不具合診断表

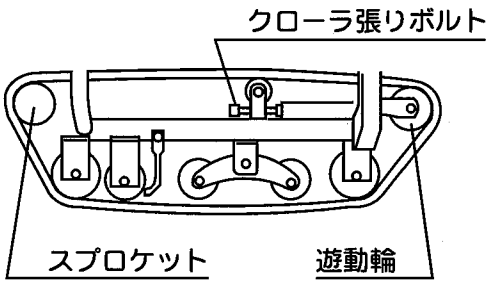
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	• 燃料不足 • 燃料の吸い込みすぎ • エンジンオイルの不足または品質不良 • 点火プラグの汚れまたは火花の飛び不足による着火不良 • その他（上記以外）	←補給する（☞11ページ） ←時間をおいて始動する ←補給または交換する（☞26ページ） ←清掃または交換する（☞30ページ） ←本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。
	すぐにエンストする	• フューエルコックが開いていない • 燃料不足 • チョークの戻し忘れ	←フューエルコックを開く（☞12ページ） ←補給する（☞11ページ） ←チョークを戻す（☞13ページ）
	エンジンが突然停止した	• 燃料切れ • エンジンオイル不足またはオイル劣化による焼き付き	←補給する（☞11ページ） ←点検および補給する（☞26ページ）
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	———	←販売店へお問い合わせください
	出力または加速不足	• Vベルトの緩み • アクセルの調整不良 • 過積載	←調整する ←販売店へお問い合わせください ←積み荷をへらす

9 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	• ネジの緩み	←点検・増締めする
	エンジンオイルの消費が早い	• エンジンオイルの漏れ	←点検および修理する
	エンジンのオーバヒート	• エンジンオイルの不足	←補給する（☞26ページ）
	燃料の消費が早い	• 燃料系統からの燃料漏れ • エアクリーナの目詰まり	←点検および修理する（販売店へ依頼してください） ←清掃または交換する（☞30ページ）
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	• 圧縮不良 • エアクリーナの目詰まり • チョークの戻し忘れ	←点検および修理する（販売店へ依頼してください） ←清掃または交換する（☞30ページ） ←チョークを戻す
	白煙または青煙が出る（排気状態の不良）	• エンジンオイルが入り過ぎている • 燃料不良 • シリンダ、ピストンリングの摩耗	←点検後、オイル量を調整する（☞26ページ） ←燃料を交換する ←点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	スロットルレバーが引っ掛かる	• スロットルワイヤの折れ、錆付き • スロットルレバーの変形、作動不良	←交換する（販売店へ依頼してください） ←交換する（販売店へ依頼してください）
動力伝達装置関連	クラッチをつないでも車が動かない	• ギヤが完全に入っていない • ブレーキが効いている • Vベルトが外れている、緩みすぎている • トランスミッションの故障	←ギヤを入れる ←ブレーキを調整する（☞32ページ） ←Vベルトをかける、または調整する（販売店へ依頼してください） ←販売店に連絡してください

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
動力伝達装置関連	クラッチの切れが悪い	• 調整不良	←調整する（☞32ページ）
	クラッチをつなぐとVベルトが滑る	• 調整不良	←調整する（☞32ページ）
	トランスミッション付近から異音がする	• ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	←販売店へお問い合わせください
	変速できない	• クラッチの調整不良 • ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	←調整する（☞32ページ） ←販売店へお問い合わせください
	ギヤ抜けする	• 確実に変速（シフト）していない • ギヤの摩耗 • 過積載	←確実に変速（シフト）する ←販売店へお問い合わせください ←積み荷を減らす
	サイドクラッチで遊びが発生する	• 調整不良	←調整する（☞33ページ）
	旋回が円滑に行えない	• 整不良	←調整する（☞33ページ）
ブレーキ	効きが悪い	• 調整ナットの緩み • ブレーキライニングの摩耗 • ブレーキドラム内にオイルが浸入 • ブレーキドラム内に水が浸入 • 過積載	←調整する（☞32ページ） ←ライニングを交換する（販売店へ依頼してください） ←オイルシールを交換する（販売店へ依頼してください） ←何回かブレーキをかけて中の水を乾かす ←積み荷を減らす
クローラ	クローラが円滑に回転しない	• 調整不良	←調整する（☞34ページ）

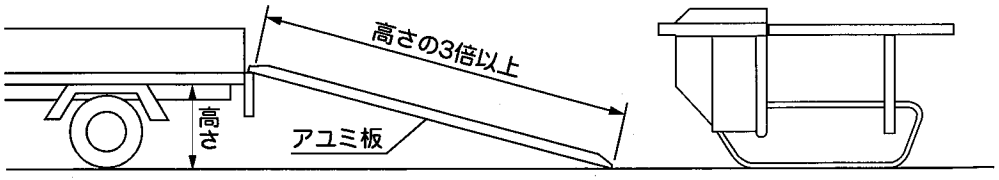
9 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　　置
転　輪、 遊動輪、 スプロケット	不連続音がある	―――	←不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）
	異常発熱がある	―――	←不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）
			

10. 本機の移送

本製品の移送のために、自動車（トラック）へ積降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラの1.2倍以上）、長さ（高さの３倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

⚠ 危　険

- **作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。**
- **アユミ板上での方向変換は行わないでください。転落の危険があります。**
- **アユミ板を上がるときは低速後進１速、アユミ板を下るときは低速前進１速にてゆっくりと走行してください。**

⚠ 注　意

アユミ板と自動車（トラック）の荷台の境目で機械の重心が急に移動することがあるので注意してください。

株式会社 筑水キャニコム

■本社営業部 ☎0943(75)2195(代) FAX (75)4396
■東京事業所 ☎03(3552)6255(代) FAX (3552)6288
■東京センター ☎03(3552)6255(代) FAX (3552)6288
■仙台センター ☎022(281)1255(代) FAX (281)3141
■埼玉センター ☎0495(77)4511(代) FAX (77)2949
■大阪センター ☎0790(42)6031(代) FAX (42)6035
■広島センター ☎0824(34)5996(代) FAX (34)5997
■福岡センター ☎0943(76)2583(代) FAX (75)5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。